

アーカイブズの初学者を対象とした学びのプログラム

—オンラインコースの開設と課題—

阿久津 美 紀

【要 旨】

本稿では、初学者の学びや現在の課題の一つとなっているデジタルアーカイブに着目し、高等教育機関以外が提供するオンラインコースの現状と課題を取り上げる。日本においては、まだあまり浸透していないオンラインコースではあるが、遠隔地からの受講が可能である点、さらに自分の予定に合わせて学べる点、学費などの利点も多い。2017年以降、国際公文書館会議（International Council on Archives, ICA）は、ファミリーアーカイブズを整理する（初級）、世界アーカイブズ宣言の理解と利用（初級）、コレクションケア（初級）、記録管理入門（初級／中級）、デジタルアーカイブの管理（中級）の5つのオンラインコースを提供している。

こうしたオンラインコースの活用は、アーカイブズ学の裾野を広げ、関心のある人へ学ぶ機会を多く提供できることで、アーカイブズ学そのものの発展にも少なからず関わってくると考えられる。様々なアーカイブズの学びの形の中で、学習者の学びを支援できる学習ツールは何かを検討していく。

【目 次】

はじめに

1. 国際公文書館会議のトレーニングプログラム
2. アメリカにおけるアーカイブズのオンラインコース
3. デジタル記録の保存需要の高まり

おわりに

はじめに

日本では、1951（昭和26）年に文部省史料館、1959（昭和34）年に山口県立文書館、1971（昭和46）年に国立公文書館が設置された。こうした資料を保存するアーカイブズ施設の設立から少し遅れて、歴史的な資料を扱う者たちの教育というところに視点が移されてきた。大学などの高等教育機関におけるアーカイブズ教育は、1990年代からいくつかの大学で授業が開講され、現在では、東北から沖縄に至るほぼ全国で、アーカイブズに関する授業を受講する環境が整備されてきた。

大学以外のところでは、文部省史料館を前身とする国文学研究資料館において1988（昭和63）年に近世史料取扱講習会を拡充する形で、史料管理学研修会が開設された。資料館の教員を中心として、それ以前の近世史料だけでなく、近現代史料を含むかたちでの記録史料の収集、整理、保存、利用等に関する専門知識と技術の普及を目的としていた。その後の史料管理学研修会は、2002（平成14）年にアーカイブズカレッジへと再編されることになった。この再編によって、①記録史料をめぐる社会環境と、研究の進展を十分に踏まえたカリキュラムの抜本的な改正、②大学院との連携・協力体制の整備、③記録史料を扱う現職者が参加しやすい運営形態へと転換がなされた¹⁾。

アーカイブズカレッジでは、短期と長期コースを設定し、(1)大学院在学中または大学卒業以上の学歴を有する者で、アーカイブズ学に強い関心を持つ者、または、(2)文書館などの歴史資料保存利用機関をはじめとして、官公署・大学・企業等の文書担当部局及び歴史編纂部局、又はアーカイブズを取り扱う必要のあるその他の組織に勤務し、アーカイブズの収集・整理・保存・利用等の業務に従事している者を申し込み資格としている。しかしながら、18の大学院で単位認定されており、大学院教育協力の一つでもあるため、アーカイブズを初歩から学びたい人にとっては些か参加を躊躇してしまう要素を含んでいる。

そこで本稿では、初学者が学びや現在の課題の一つとなっているデジタルアーカイブの保存に着目し、高等教育機関以外のオンラインコースに着目していく。日本においては、まだあまり浸透していないオンラインコースではあるが、遠隔地からの受講が可能である点、さらに自分の予定に合わせて学べる点、学費などの利点も多い。アーカイブズ学の裾野を広げ、学ぶ機会を多く提供できることは分野の発展にも少なからず関わってくると考えられる。様々なアーカイブズの学びの形の中で、学習者の学びの意欲を支援できる学習ツールは何かを検討していく。

1. 国際公文書館会議のトレーニングプログラム

2017年5月にタンザニアのアルーシャで開催された国際公文書館会議（International Council on Archives, ICA）のプログラム委員会（Programme Commission, PCOM）会議で設立したオンラインコースは、当初は3つのコースだったものの、その後コレクションケアとデジタル

1) 国文学研究資料館史料館『アーカイブズ・カレッジテキスト史料管理学研修会講義要綱』pp.5-6、2002年。

アーカイブに関する2つのコースが加わり、現在5つのコースを提供している²⁾。これらのコースはICAの会員でなくても誰でも受講することが可能であり、広く学びの門戸が開かれている。オンラインのトレーニングプログラムは、ファミリーアーカイブズを整理する（初級）、世界アーカイブズ宣言の理解と利用（初級）、コレクションケア（初級）、記録管理入門（初級/中級）、デジタルアーカイブの管理（中級）の5つで、80から225ユーロで受講することができる。言語は英語かフランス語を選択することができ、所要時間は一番短いファミリーアーカイブズのコースで6時間となっている。このうち世界アーカイブズ宣言の理解と利用については、現在（2024年9月20日時点）オンラインコースの利用が停止されているものの、その他のコースについては、下記のようにになっている。

The screenshot displays the 'ONLINE COURSES CATALOGUE' with a link to 'ACCESS YOUR ALREADY PURCHASED COURSES >'. It features three course cards, each with a '0.0' rating and an 'END' button. The first card, 'Introduction to Records Management', describes a course for managing records in government, business, or non-for-profit organizations, aimed at beginners and intermediates. It is available in French, has a duration of 20-30h, and costs €100.00 for non-members and €80.00 for members. The second card, 'Understanding and Using the UDA', is about the Universal Declaration on Archives, intended for a wide audience, including those working in archives and records management. It is also available in French, has a duration of 10-20h, and costs €50.00. The third card, 'Organising Family Archives', is for the general public, focusing on organizing family papers and photographs. It is also available in French, has a duration of 6h, and costs €50.00. Each card has a 'LEARN MORE' button.

Course Title	Duration	Level	Standard rate	Member rate	Availability
Introduction to Records Management	20 - 30h	Beginner / Intermediate	€100.00	€80.00	Available
Understanding and Using the UDA	10 - 20h	Beginner	€50.00	-	Currently unavailable
Organising Family Archives	6h	Beginner	€50.00	-	Available

図1 ICA が提供するオンラインコース

<https://www.ica.org/professional-programme/training-programme/>

2) 2020年7、8月の時点では、3つのコースが用意されており、その後2つのコースが追加された。渡辺悦子、大野綾佳「ICA オンライン研修プログラム「入門：記録管理」コースについて」『アーカイブズ』第78号、2000年

①ファミリーアーカイブズを整理する（初級）

このコースは、一般の人々を対象とし、ICA のトレーニングオフィサーであるマーガレット・クロケット（Margaret Crockett）によって開発された³⁾。貴重な家族の資料の整理をするために、シンプルで実用的なガイダンスを提供するために設計されている。家族のアーカイブズの整理をすること、それらが何であるか、それらを整理してリスト化する方法、適切に保存するための梱包と手入れの方法、何を保持すべきか、何を廃棄できるか、将来コンピュータの記録がアクセス可能で読み取り可能になるための特定の要件、家族と共有するためのデジタルコピーを作成する方法、および識別するためのプロジェクトの計画について学ぶことができる。

- 1) このコースについて：ICA のオンライン学習プラットフォームを初めて使用する学習者向けのガイダンス、コースの概要と学習成果
- 2) ファミリーアーカイブズ：それらが何であるか、そしてそれらが他の情報形式とどのように異なるか
- 3) アーカイブズの整理：アーカイブズの構造を確立し文書化する方法と、これが重要である理由
- 4) 何を残すかを決める：なぜすべての記録や情報を永久に保持しないのか、何をどのように選ぶのか
- 5) ファミリーアーカイブズの保持：従来の形式でアーカイブズを取り扱い、パッケージ化、保存して、将来の世代に適切に保存する方法
- 6) デジタルアーカイブの管理：家族のアーカイブズをデジタル形式で作成、保存、取り込み、保存して、時間の経過とともに見つけて使用できるようにする方法
- 7) ファミリーアーカイブズのデジタル化：家族のアーカイブズをデジタル化する理由と方法
- 8) アクションプラン：家族のアーカイブズプロジェクトを管理する方法
- 9) まとめ：結論と次のステップに関するアドバイス

このコースには、ダウンロード可能なプレゼンテーション、ドキュメント、ビデオに加えて、理解度をテストするためのクイズとオプションの演習が含まれている。テストでは6割の正解率で合格すると、ICA から修了証明書が発行される。

②コレクションケア（初級）

コレクションケアのコースは、ICA のアーカイブズの建物と環境に関する専門家グループの元議長であるジョナサン・リース・ルイス（Jonathan Rhys-Lewis）によって開発および執筆された。受講するのに予備知識や経験は必要なく、コースの修了までに、学習者はアーカイブズコレクションを適切に管理するための知識とスキルを身に付けることができる。このコース

3) マーガレット・クロケットは、アーキビスト兼コンサルタントである、ICA のトレーニングオフィサーも務め、英国医師会やIMFなどで、記録管理のユニット長やチーフとして働き、アーカイブズと記録管理に関する基本的な教科書を執筆している。Crockett, Margaret. (2015) *The No-Nonsense Guide to Archives and Recordkeeping*, London; Facet Publishing

の特徴は、保存修復の役割と、専門の保存修復家とどのように協力するかということが提案されていることである。このコースでは、コレクション調査、その実施方法、およびコレクションケアの管理だけでなく、行動とリソースを主張するための証拠を提示するための、その意義についても学ぶことができる。

- 1) 用語と劣化の10の要因
- 2) リスク管理
- 3) アーカイブズの媒体とフォーマット
- 4) 物理的なアーカイブの劣化
- 5) アーカイブズの建物の指定
- 6) 建物の管理：火災
- 7) 建物のリスクとセキュリティ
- 8) サステナブルな建築の選択
- 9) 環境モニタリング
- 10) 昆虫と害虫
- 11) カビ
- 12) アーカイブズの取り扱いとクリーニング
- 13) アーカイブズのための棚の指定
- 14) 梱包の利用
- 15) 保存（conservation）
- 16) コレクション調査
- 17) 災害対策
- 18) 保存方針

初級のコースであるため、受講のために予備知識や経験は必要なく、コースの終わりまでに、学習者はアーカイブズのコレクションケアを適切に管理するための知識とスキルを身に付けることができる。他のコースと同様にコースは英語とフランス語で受講でき、学習者は、問題の解答で6割以上のスコアを達成した場合、修了証明書をダウンロードすることが可能になる。

③記録管理入門（初級 / 中級）

このコースでは、主に PARBICA⁴⁾モデルポリシー、記録計画、廃棄スケジュールを使用し、組織の記録管理ニーズに合わせてそれらを調整する方法で学ぶことができる。コースで取り上げる原則と概念はデジタル記録にも適用できるが、紙媒体の記録、特に非現用記録の評価に焦点をあてている。

4) PARBICA は、1981年に設立された国際公文書館会議（ICA）の太平洋地域支部（Pacific Regional Branch）で、太平洋全域の記録とアーカイブの効果的な管理と使用を促進し、地域のアーカイブ遺産を保存することを目的とした専門組織である。About PARBICA <<https://parbica.org/about-parbica/>>

- 1) 「優れたガバナンス (good governance)」、「記録 (record)」、「アーカイブズ (archives)」の用語を定義し、記録管理が優れたガバナンスをどのように支えるかを説明
- 2) 組織内での記録管理の役割と責任
- 3) 組織で記録管理を成功裏に確立するための前提条件を特定
- 4) 組織の中核的なビジネス記録や業務記録の記録計画を策定
- 5) 記録計画を定義し、記録管理ポリシーを実装
- 6) 廃棄スケジュール (disposal schedules) の定義と実装
- 7) 組織の管理レコードの共通管理機能の廃棄スケジュールの定義
- 8) 記録計画を定義し、廃棄を実行するための権限を取得
- 9) 組織内の記録管理要件を特定、文書化、使用

受講期間は約3か月間で、合計20から30時間が受講の目安となっている。さらに問題の6割に解答すると修了証明書を受け取ることができる。しかしながら、紙媒体の記録管理でなおかつ非現用記録の管理がコースの中心であるため、紙媒体だけでなく、ボーンデジタルの記録を多く扱うようになった現代においては、少しカリキュラムの見直しも検討する必要があると考えられる。

④デジタルアーカイブの管理（中級）

このコースは、ICAのデジタルレコードの専門家グループの元議長であるナンシー・マクガバン (Nancy McGovern) とICAのトレーニングオフィサーであるマーガレット・クロケットを中心に開発された。収集して保持する記録の決定から、記録の保管と取り込み、説明とメタデータの管理、保存手法、アクセスの提供までの管理に関するプロセスを学ぶことができる。さらに、限られたリソースでデジタルアーカイブの管理を開始または推進するための実践的なステップとデジタルアーカイブの継続的な管理の基盤について提供している。

- 1) デジタルアーカイブ管理の概要
- 2) 収集
- 3) 取り込む
- 4) 保存
- 5) 基盤
- 6) アクセス
- 7) 管理

このコースでは、受講時間に20から30時間を要し、中級者を対象としているため、アーカイブズを物理的な形式で管理するための原則と実践に精通している必要がある。また、ここでも、デジタルの現用記録の管理は扱っていないため、現用記録からの一貫した記録管理を学ぶことはできないという課題がある。一方で、近年では多くのアーカイブズがデジタルで作成されているため、ボーンデジタルで作成された記録をどのように保存し、活用していくかということを考慮する必要がある。

2. アメリカにおけるアーカイブズのオンラインコース

アメリカにおいては、国立公文書館（National Archives and Records Administration）やアーキビスト協会（Society of American Archivist）がアーカイブズを学ぶためのオンラインコースを提供している。アメリカのアーキビスト協会では、約80以上のトレーニングコースを提供しており、その内容は、①アーカイブズの一般的知識、②選別、評価や受け入れ、③編成や記述、④レファレンスサービスとアクセス、⑤保存と保護、⑥アウトリーチ、アドボカシーや広報、⑦倫理と法的責任⁵⁾など、多岐にわたる。対面で学ぶワークショップ形式の講座やオンラインコースを開設しているものもあるが、80コースの内、オンラインで受講できるコースは、その約半数である。また講座費用の価格も119ドルからあり、期間の長いものは859ドルとコースの長さなどによって受講料は幅がある。しかしながら、専門職か否かにかかわらず、オンラインで学ぶ機会を得られることには違いない。

一方でアメリカの国立公文書館は、トレーニングのためのオンラインレッスンを無料で公開している⁶⁾。対象者は、主に公文書を扱う職員向けであるため、講義の内容もアメリカの行政府の記録管理に焦点をあてているが、それでも、その内容から公文書の管理に興味のある初学者が学べる部分も多い。ICAが設置しているオンラインコースのような修了証は発行されないが、学ぶ人のペースで進むことができる。このコースは3つのレベルに分かれており、それぞれオンラインレッスンの主な対象者は、レベル1が管理者（Custodians）、レベル2 連絡調整者（Liaisons）、レベル3が政府機関の記録の担当者（Agency Records Officers）となっている。

多くのコースが用意されているため、特にここではレベル1のオンラインレッスンに着目していきたい。レベル1は43のオンラインレッスンが用意されている。レッスンの初めは、記録のライフサイクル、永続的記録と一時的な記録の用語の説明が行われる。やはりアーカイブズ学の中では既に定着しつつある用語であっても初めて学ぶ人にとっては馴染みがないものも多くある。そのため、こうした用語の解説は初学者が学ぶ上で基礎情報として有益と考えられる。また記録管理方針、レコードスケジュール、ファイルプランがどういうものなのかという解説も含まれている。

昨今では、公文書の記録管理も電子記録の管理が中心になりつつある。オンラインコースでは電子記録の管理にメタデータがどのように使用されるかについての説明や電子ファイルの名称の付与に関しても方法を提示している。さらにアメリカ国立公文書館が実施している電子メールの記録管理についても学ぶことができる。アメリカ国立公文書館は、電子メールの記録管理に関して業務の役割を基礎としたキャップストーン（Capstone）と呼ばれるアプローチを採用している⁷⁾。キャップストーンアプローチでは、職員が電子メールの記録をファイリングする必要がある記録管理アプリケーションを使用するのではなく、電子メールの管理により簡素で、

5) Society of American Archivists, "Course Catalog", <<https://www2.archivists.org/prof-education/catalog>>

6) National Archives and Records Administration, "Records Management Training Online Lessons," <<https://www.archives.gov/online-lessons>>

7) 1990年代以降の電子メールの評価選別をめぐるアメリカ政府や記録の専門職間の議論の変遷については、坂口貴弘「米国連邦政府における電子記録の評価選別—電子メールを中心に—」『レコード・マネジメント』第86巻、2024年、pp.3-17に詳しい。

自動化されたアプローチを使用している⁸⁾。キャップストーンアプローチでは、メールアカウントの所有者の作業やポジションに基づいてメールが分類され、保存される。このアプローチを使用すれば、重要な判断を行うことが多い幹部職員のメールを永続的に保存することが可能になる。一方で、適切なアカウントの選択や個人的な電子メールやその他の記録されていない電子メールを偶発的に収集する可能性など、組織が考慮しなければならないリスクもある。また、現在では、電子メールだけでなく、チャット形式など様々なメッセージで業務のやり取りがなされており、それについても、アメリカの国立公文書館は、2023年にガイダンスを提示している⁹⁾。初学者の中でも、アーカイブズへの関心は様々である。実際に公文書を取り扱う仕事に就いていなくとも、こうした公文書の記録管理を学ぶことで、アメリカの記録のライフサイクルを実際にイメージしやすくなるのではないだろうか。

3. デジタル記録の保存需要の高まり

これまで初学者の教育に焦点を当ててきたが、ボーンデジタルを含む記録については、既にアーカイブズに携わってきた者の多くも学ぶ機会を必要としている。デジタル保存アウトリーチと教育ネットワーク（Digital Preservation Outreach & Education Network, DPOE-N）は、米国でデジタル保存のトレーニングを提供することを目的として、2010年に議会図書館（Library of Congress）によって作られた。このプログラムは、将来に向け、さらなる開発及びサポートをするために、2018年にプラットインスティテュートの情報学部とニューヨーク大学の動画のアーカイビングと保存プログラムに移行している。

ボーンデジタルの記録とは、紙の記録からデジタル化されるのではなく、最初からデジタル形式で作成された記録である。例えば、メール、テキストベースのドキュメント（Word ドキュメント、Google ドキュメントなど）、プレゼンテーション（PowerPoint など）、スプレッドシート（Excel など）、PDF ファイル、画像と動画、CAD 図面、3D モデル、データセットとデータベースなどがあげられる¹⁰⁾。

議会図書館のプログラム、デジタル保存アウトリーチと教育ネットワーク（Digital Preservation Outreach & Education, DPOE）は、2010年にトレーニングニーズの評価調査を実施した。電子メールを通じて、実施された調査は、アーキビスト、図書館員、情報担当者などの専門家を対象にしていた。調査には868件の回答があり、回答者の所属は、図書館40%、アーカイブズ34%、博物館16%、歴史協会4.5%、0.9%は研究グループであった。また、この調査を受けた組織の規模は、約半数が24人以下のスタッフで構成されている組織であり、500人以上の組織は全体の約1割であった。そして、回答者のほぼ85%が、デジタル記録の保存は組織にとって非常に重要であると考えている。しかし、回答者の中には、資料に直接携わる者はデジタル保存

8) The U.S. National Archives and Records Administration, NARA Bulletin 2023-02: Expanding the Use of a Role-Based Approach (Capstone) for Electronic Messages, <https://www.archives.gov/records-mgmt/bulletins/2023/2023-02>

9) 前掲註8。

10) The National archive, “Born-digital records and metadata,” <https://www.nationalarchives.gov.uk/information-management/manage-information/digital-records-transfer/what-are-born-digital-records/>

を非常に重要と考えているが、より大きな組織や管理部門はそう考えていないという意見もあった。アンケート調査では、大半の団体が研修のための資金があると回答しているが、多くの団体は資金が限られていることを指摘している。さらに、スタッフの人数が少ない組織は、スタッフの人数が多い組織よりも、研修のための資金がないと回答する傾向が強かった。トレーニングの種類としては、回答者の32%が、技術的な研修（実務家が技術を理解し、適用できるように支援する）を、希望する研修のタイプとして挙げている。¹¹⁾

DPOE の調査の約10年後、National Digital Stewardship Alliance (NDSA) は、人員配置調査 (2021 Staffing Survey) を公表している。NDSA はアメリカの議会図書館の National Digital Information Infrastructure and Preservation Program (NDIIPP) のイニシアチブとして2010年7月に設立された国際的組織で、デジタル遺産の保存のための提言、専門知識、サポートを提供している。NDSA のメンバーシップは機関レベルで、大学、政府、非営利団体、営利企業、専門家団体を代表する278人のメンバーがおり、各機関から複数の個人がNDSA 活動に参加することが奨励されている。人員配置調査では、デジタルの保存トレーニングの利用可能性とアクセスが適切であると考えているだけでなく、回答者の98%が、過去3から5年間にデジタル保存に関連する専門能力開発の機会に少なくとも1回参加したことが確認できる。

日本においても近年、特定非営利活動法人日本デジタルアーキビスト資格認定機構や岐阜女子大学などデジタルアーキビストの養成講座を設置するところも増えてきている。しかし、多くの場合日本においては、劣化のすんだ資料や利用推進を考慮してデジタル化することに関心を置き、ボーンデジタルの資料をどのように管理し、利活用をすすめていくかというような部分はアーカイブズ学の中でも発展の途上にあるといえる。

おわりに

本稿では、アーカイブズに関心を寄せる人がどのように学ぶ機会を得ることができるのかということを出発点として、大学などの高等教育ではなく、多くの人が学ぶ機会を得られる、オンラインコースについて着目してきた。現在では専門職団体やアーカイブズ施設が支援するなど、ICA のオンラインコース以外にもアメリカやオーストラリアなどのアーキビスト協会でもオンラインコースを提供しているところもあり、自分の関心に合わせて受講を選択することができる。

日本においては未だオンラインコースは定着していないものの、理論や方法、実践を網羅しつつ、時代を反映した内容を入れることで、アーカイブズをより身近なものとして認知してもらう可能性が広がる。また、ボーンデジタルの資料だけでなく、すでにイギリスなどの国立公文書館でAIを評価・選別に取り入れる試みなども実施されており、そうした技術の発展とアーカイブズは切っても切れない関係である。そのため、技術の発展とアーカイブズの進展を学ぶ機会や様々な人が関心を持ってもらえるような「アーカイブズ」と「社会」を結びつけるようなテーマでのアーカイブズを学ぶ場が増えていくことがアーカイブズをより身近なものとして

11) 議会図書館、Digital Preservation Outreach and Education (DPOE) Training Needs Assessment Survey: Executive Summary, Survey Details. <<https://digitalpreservation.gov/education/documents/DPOENeedsAssessmentSurveyExecutiveSummary.pdf>>

考えてもらう契機となるはずである。

【参考文献】

- 独立行政法人国立公文書館「アーキビスト養成・認証制度調査報告書」、2019年11月
渡辺悦子、大野綾佳「ICA オンライン研修プログラム「入門：記録管理」コースについて」『アーカイブズ』第78号、2000年
National Digital Stewardship Alliance (NDSA)
Good Migrations: A Checklist for Migrating Your Digital Preservation Infrastructure March 6, 2021
Mudle, Kirk Robert and Cocciolo, Anthony. “What Needs to be Learned by U.S. Cultural Heritage Professionals? Results from the Digital Preservation Outreach & Education Network” Preservation, Digital Technology & Culture, 2024.
〈<https://doi.org/10.1515/pdte-2024-0024>〉